

患者入院支援・周術期管理チームにおける 薬剤師の関わり

小山 朋子[†]第72回国立病院総合医学会
(2018年11月10日 於 神戸)

IRYO Vol. 75 No. 3 (233-237) 2021

要 旨

急性期病院では、年々入院期間は短縮する傾向にあり、手術の前日入院、当日入院も増加傾向にあるが、入院後の限られた時間の中で患者のアセスメントを十分に行うことは困難である。そこで外来系スタッフを含めた多職種、多部門スタッフが協働し周術期管理チームとして周術期患者管理を行うことが求められている。また、周術期に注意を要する薬剤のなかには、経口避妊剤のように4週間前からの中止を要する術前中止薬もあり、薬剤師による早い段階からの介入による手術予定患者の薬学的管理も重要視されてきている。国立病院機構福山医療センター（当院）においても、2018年1月から「患者入院支援・周術期管理チーム」を立ち上げ外来から退院までの一貫したサポートを開始した。チーム医療における薬剤師の役割、保険薬局との薬業連携や今後の展望について紹介する。

キーワード 術前中止薬、薬業連携、チーム医療

病院概要

国立病院機構福山医療センター（当院）は、34診療科を有する366床の第二次救急医療指定病院（平成30年11月現在）であり、薬剤部には薬剤師22名、調剤助手5名が所属している。いわゆる大規模病院ではないが、さまざまなチーム医療活動が盛んにおこなわれており、薬剤部からも人員を配し業務の一端を担っている。

背 景

現行の医療制度下においては、入院期間はできる

限り短縮する必要がある。当院においても例外ではなく、年々入院期間は短縮傾向にあり、手術の前日入院や当日入院など、入院から手術までに関わることができる時間も非常に短くなってきている。それによって、入院前の既往症のコントロールが不十分な例や、検査データのチェックもれ、退院調整に時間を要し入院日数が延長してしまうといった問題が発生していた。

また、術前中止薬には経口避妊剤のように4週間前からの中止を要する薬剤もあり¹⁾、早期からの常用薬の評価が必要である。近年の後発医薬品使用推進や配合剤の増加により、医師や看護師のみでは、限られた診療時間内で、商品名から術前中止薬を的確

国立病院機構福山医療センター（現所属：国立病院機構関門医療センター）薬剤部 [†]薬剤師
著者連絡先：小山朋子 国立病院機構関門医療センター 薬剤部 〒732-8510 山口県下関市長府外浦町1番1号
e-mail: koyama.tomoko.ht@mail.hosp.go.jp
(2019年5月7日受付, 2020年5月8日受理)

Pharmacist's Role in Patient Admission Support & Perioperative Care Team (PASPORT)
Tomoko Koyama, NHO Fukuyama Medical Center (NHO Kanmon Medical Center)
(Received May 7, 2019, Accepted May 8, 2020)

Key Words : preoperative withdrawal medicine, collaboration between hospital and community pharmacists, team medical care